

令和4年度バス事業における評価結果について

評価指標 及び目標値	令和3年度実績 (調査結果)	令和4年度実績 (調査結果)	評価結果・評価基準 からの方向性	備考(見直し策の具 体例)
1便あたりの平均 利用者数 (基本路線9人以上、 乗継支線2人以上)	1便あたり平均利用 者数 基本路線7.5人 乗継支線1.6人	1便あたり平均利用 者数 基本路線8.1人 乗継支線1.7人	○未達成 コロナウイルスの5 類移行により、基本 路線・乗継支線い ずれも前年度より増加 傾向にあるが、目標 達成には及ばなかつ た。	R5年4月～12月 においては利用者が 増加している現状か ら、利用者数が回復 傾向にあると思われ る。
収支率 (基本路線30% 以上)	基本路線収支率 15.0% 但し、無料措置が無 ければ18.2%	基本路線収支率 15.5% 但し、無料措置が無 ければ18.6%	○未達成 コロナウイルスの5 類移行による乗車人 数は増加したが、支 出の増の影響で、収 支率が微増したと考 えられる。	引き続き利用者増加 に努め、収支率の向 上を図る。
満足度 (1年目50%以 上、2年目以降 60%以上) 「満足」及び「や や満足」の合計値 の割合をいう。	バス利用者実態調査 結果(令和4年3月 実施)による。 ○運行ダイヤ 48.4% ○バスルート 83.1% ○バス運賃 97.7% ○運転士マナー 93.3%	バス利用者実態調査 結果(令和5年3月 実施)による。 ○運行ダイヤ 64.5% ○バスルート 83.7% ○バス運賃 98.1% ○運転士マナー 95.4%	○達成 全項目で前年度を上 回り、60%以上を達 成。引き続き満足度 の向上に努める。	バスが住民生活に定 着しつつある中、引 き続き、利用者の意 見をできる限り反映 し、満足度の向上を 図る。
利便性 (1年目50%以 上、2年目以降 60%以上) 外出機会が「増 加」及び「やや増 加」した住民の割 合をいう。	【利用者実態調査】 ・バスの利用回数 は、R2年度に比べ 週単位の利用者数が 増加。特に、週5回 利用者が増加。 ・乗車目的では、通 勤、通学、買物の利 用者数が多い。 ・バスが定着してき ていると思われる。 ○R3年度は住民ア ンケート未実施。	【利用者実態調査】 ・バスの利用回数 は、R3年度に比べ 月3、4回利用者が 増加。 ・乗車目的では、通 勤、買物、通院の利 用者数が多い。 ・バスが定着してき ていると思われる。 ○R4年度は住民ア ンケート未実施。	○未達成 ・評価指標とする住 民アンケート調査は 毎年実施していない ことから、増減比較 をする客観的数値が ないことため、未達 成とする。 ・利用者実態調査に おける週の利用回数 の増加、通勤・通 院・買物の利用目的 が多く、バスが定着 してきていると思わ れる。しかし、便数 増や運行ダイヤ改善 への意見は依然とし て多い状況から、利 便性は向上している とは言い難い。運行 ダイヤの見直しな ど、満足度向上策の 検討及び実施に努め る。	利便性及び満足度向 上策を持続的に実施 する。